中部軍司令部防空作戦室跡

第二次世界大戦中、帝国陸軍はここに堅牢な要塞化されたコンクリートの掩蔽壕を建設し、国内で数少ない防空司令部の1つを置いた。 軍部はここで米軍の空爆に対する防衛を統制し、空襲警報を発した。掩蔽壕は荘重な構造であった。外側のコンクリート壁は1メートル以上の厚さで、その構造は地下1階を含めて4フロアで構成されていた。防空作戦室には若い女性と少女が無線通信員として働いていたが、その多くは高校生であった。司令部の建物は戦争を生き延びたが、1970年の大阪万国博覧会を開催する準備の一環として、（終戦から）四半世紀後に取り壊された。現在、日本に残る唯一の防空司令部は広島にあり、1945年の原爆投下にも持ちこたえた。